犬・猫の熱中症に注意！

犬や猫は密な毛に覆われており、汗腺が足の裏などにしかありません。汗をかかない動物の体温調節は、血液の対流や呼吸による放熱がメインのため、体温調節が苦手であり、高温多湿の環境下では熱中症に注意が必要です。

※短頭種、幼・高齢、肥満等の場合は特に注意！

このような症状がみられたら熱中症かも・・・？

暑さに対する犬の状態	暑さに対する猫の状態
● 運動をしていないのにパンティング※をしていたり、呼吸が浅く早くなる ● よだれ、歯肉や舌、結膜などの充血やうっ血、頻脈	● 開口呼吸（猫は通常口を開けて呼吸しない） ● 呼吸が浅く早くなる、パンティング※、よだれ、けいれん
犬は暑い時、パンティング※により熱を蒸散させる、体を冷たいものに直接触れさせて熱を逃がす、水をたくさん飲む等の行動をとって体温調節を行う。	猫は暑い時、日陰や涼しい場所に移動する、体を冷たいものに直接触れさせて熱を逃がす、地肌をなめて体の表面を濡らして体温を蒸散させる、パンティング※する等の行動をとって体温調節を行う。

（※：ハアハアと口を開けて呼吸し、熱を蒸散させる行為）

熱中症が疑われたら・・・

①常温の水をかけ流す、②水分を多く含んだタオルで包むなどして体を冷やし、直ちに動物病院を受診してください。
治療が遅れると死に至る危険性が高まります。

○屋外では直射日光が当たらないよう日陰を作り、水がお湯にならないようこまめに入れ替えましょう。
○散歩は炎天下を避け、早朝や夕方の涼しい時間帯にしましょう。また、こまめに水分補給させたり、水をかけ流す、風を送るなどして体を冷やしてあげましょう。
○屋内では風通しを良くし、犬や猫が自由に居場所を選択できるようにしましょう。また、室温を26℃以下に保ちましょう。

【問合せ先】
神奈川県平塚保健福祉事務所
環境衛生課　TEL：0463-32-0130